

JAとりで通信

NO.420
2025.10.30

連載
連携医のご紹介

連載
老年歯科学講座



脳神経外科が扱う疾患は、脳血管障害(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)、脳腫瘍、頭部外傷、機能的疾患(てんかん、三叉神経痛、顔面けいれんなど)など多岐に渡ります。手術が必要となるのは一部の方ですが、開頭手術やカテーテル治療、神経内視鏡などを用いて治療にあたっています。以下、代表的な疾患について、ご紹介いたします。

● 脳梗塞

脳の血管が詰まる病気で、片側の手足の運動麻痺や片側の顔面の麻痺、呂律が回らない、言葉が出ないなど、様々な症状が現れます。症状が出現してから早い段階で治療開始できる場合、アルテプラゼという血栓を溶かす薬を点滴する方法(血栓溶解療法)や脳の血管に詰まった血栓をカテーテル

によって直接取り除いてしまう方法(図1, 血栓回収療法)によって後遺症を最小限に抑えることができる可能性があります。また、脳梗塞再発予防の外科的治療として、頸部頸動脈狭窄症に対して内頸動脈内膜剥離術(CEA)や頸動脈ステント留置術(図2, CAS)なども積極的に行っております。

図1

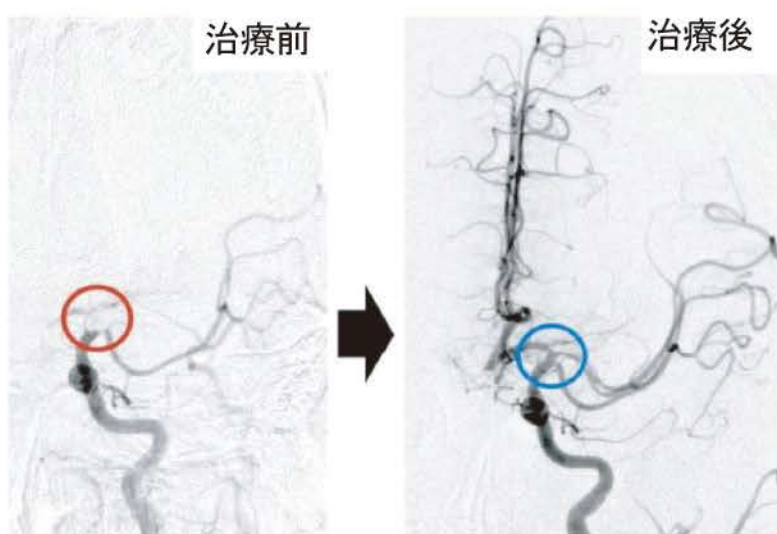
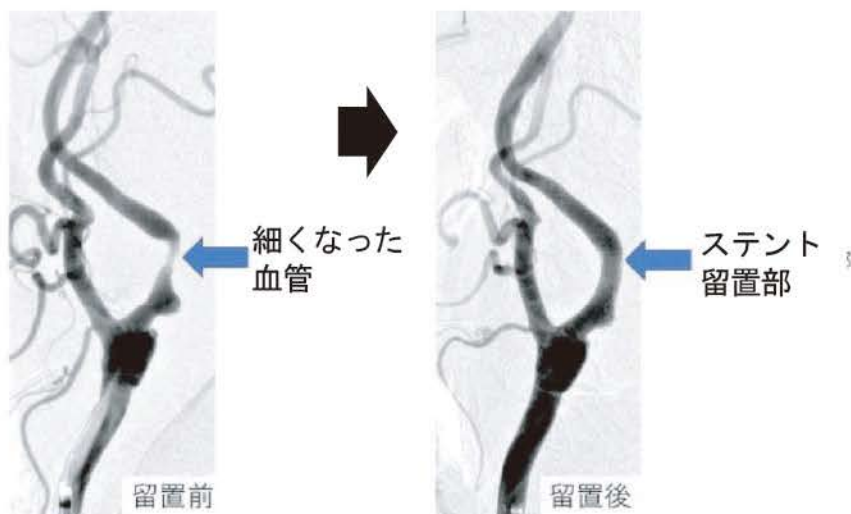


図2

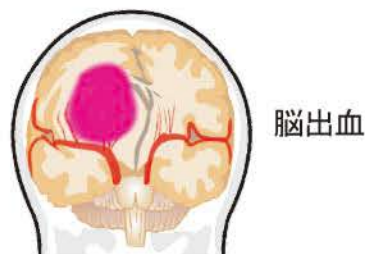
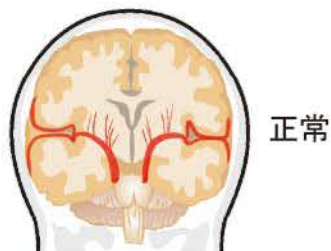


● 脳出血（図3）

脳の中を通る細い血管が破れる病気で、脳卒中中の約15%を占めています。脳の内部で血管が破れることでその周囲の脳が損傷を受けますが、血腫によって破壊された脳の部位により、様々な症状が現れます。手足を動かす部位が破壊されれば出血した場所と反対側の麻痺（右脳で出血すれば左半身の麻痺）、言葉を司る場所で出血す

れば言語の障害（失語）、目の機能を司っている場所で出血すれば視野障害、という具合です。血圧管理などの内科的治療では太刀打ちできないほど血腫が大きく生命に危険がある時や、血腫を取り除くことで早期回復が期待できる時には、外科的に血腫を除去する開頭手術あるいは内視鏡手術を行います。

図3



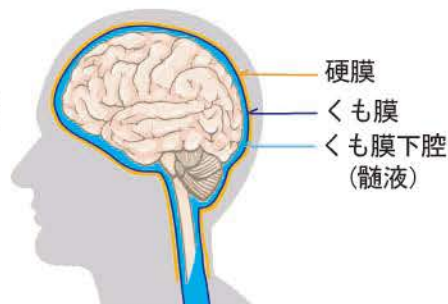
● くも膜下出血（図4）

脳の表面のくも膜下腔という場所に出血をきたした状態です。「脳動脈瘤」という脳血管にできた“コブ”が破裂して起きることが多く、年間当たり約1万人に1～2人に発生します。50～60歳代の方が多く、発症すれば25～50%の方が亡くなるという非常に恐ろしい病気です。症状は突然の激しい頭痛が特徴で、「ハンマーで殴られたような

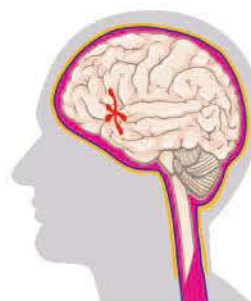
痛み」などと表現されます。重症になると意識がもうろうとしたり、意識が完全に無くなってしまう。再破裂予防の治療には開頭手術（クリッピング術）とカテーテル手術（コイル塞栓術）があり、それぞれに利点、欠点があり、どちらが適しているかを多くの要素を考慮して判断し、治療方針を決定しています

図4

正常



くも膜下出血



● 脳腫瘍

脳そのもの（脳の細胞や脳を包む膜、脳神経など）から発生した腫瘍を原発性脳腫瘍、体にできたがんが元の臓器から離れて脳や頭蓋内に転移したものは転移性脳腫瘍と言います。原発性脳腫瘍は良性から悪性まで様々なものがあり、頻度が高いものは髄膜腫や神経膠腫（グリオーマ）です。転移性脳腫瘍は、肺がんや乳がんできちやすいです。症状は頭蓋内圧亢進症状（頭痛や悪心・嘔吐、

意識障害）や局所症状（半身の麻痺や言語障害、視覚の障害など）があります。また、てんかん発作も多く、脳腫瘍が発見される原因の30～50%を占め、さらに10～30%が経過中に発作を来すと言われています。脳腫瘍の治療は、外科的摘出術、放射線治療、化学療法などを組み合わせて行うこととなります

● 三叉神経痛・顔面けいれん

三叉神経痛とは顔に痛みのでる病気です。突発的な電気が走るような痛みが数秒から数十秒あり、洗顔、食事などの動作で誘発されます。顔面けいれんは顔の半分が自分の意思とは関係なくピクピクとけいれんするもので、普通は目の周囲から始まりだんだん口元へと広がります。様々な原因

が考えられますが、多くは三叉神経や顔面神経が脳幹に入るところなどで、血管によって圧迫されることにより起こります。お薬によってコントロールできることもあります。困難な場合には外科的治療（微小血管減圧術）の選択肢があり、奏功率が高いことが知られています。

歯の本数が健康寿命を左右するって本当？

高齢者（嚥下）歯科科長 井口 寛弘

自分の歯が20本以上ある高齢者の約85%は、普通食を食べられる

“歳をとると歯が減るのは仕方ない”
と思いませんか。実は、歯の本数は健康寿命に深く関係しています。歯が多く残っている人ほど、普通の食事を楽しめる割合が高く、医療費も少ない傾向があるのです。

例えば、歯が20本以上残っている高齢者の約85%が普通食を食べられます。一方、歯が10本未満で義歯を使っていない人は、普通食を食べられる割合が約35%にまで下がります。義歯を使えば70%まで回復しますが、やはり自分の歯があることが理想です。



歯の健康は「生きる力」にも関係している

さらに、歯の本数が多い人ほど医療費が少ないという調査結果もあります。

（図1）都道府県別のデータでは、歯が0～4本の人の年間医療費は約51万円、20本以上の人は約34万円と、17万円近くの差が出ています。

歯がしっかり残っていると、よく噛めて唾液が出やすくなり、消化や栄養吸収がスムーズになります。満腹感も得られやすく、暴飲暴食の予防にもつながります。つまり、歯の健康は「食べる力」だけでなく「生きる力」にも関係しているのです。

「ピンピンころり」を目指すには、歯の本数を守ることが第一歩。定期的な歯科受診や、必要に応じた義歯の使用で、噛む力を維持し、健康な毎日を送りましょう。

図1 残存歯数と医療費の関係

都道府県に関わらず、歯が多く残っている人ほど
歯科医療費が少ない傾向を示す



画像引用：日本歯科医師会社会保障制度改革国民会議提出資料

連携医のご紹介

中村クリニック



理事長・院長 下川 治

診療科目 内科一般、消化器内科、泌尿器科

診療時間		月	火	水	木	金	土
午前	9:00～12:00	○	○	○	休	○	○
午後	15:00～17:00	○	○	○	休	○	休

休診日 土曜日の午後・木曜日・日曜日・祝日

連絡先 〒301-0000
茨城県龍ヶ崎市六斗蒔8690番1
TEL 0297-64-6655 FAX 0297-64-7180

中村クリニックは、先代中村尚志が1991年に龍ヶ崎市に内科・外科クリニックとして開業いたしました。先代の急逝に伴い2004年からは下川治が診療を引き継いでおります。専門は消化器内科ですが、一般内科、泌尿器科、禁煙外来、睡眠時無呼吸検査など幅広い診療を目指し、上部消化管内視鏡検査、CT検査、超音波検査などを備えております。

JAとりで総合医療センター様には、緊急時や入院治療が必要な患者さんをいつも快く受け入れていただいております。先生方や関係各部署のスタッフの皆さんには大変感謝しております。

今後も貴院と緊密な連携を保ち、地域の皆様に信頼される医療を提供していきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

新人のご紹介

HCU



HCU病棟に新しい仲間の新人看護師2名が配属されました。
当病棟では様々な重症患者さんが緊急入院し、患者さんの多くは手術後や病態が不安定な患者さんですので、幅広い知識と技術、そして迅速な判断が求められます。
患者さんやご家族に安心感を感じてもらえるようにと、2人とも緊張感の中でも明るい笑顔で頑張っています。温かな眼差しで患者さんに寄り添う姿が印象的です。
毎日多くのことを学びながら、HCUの一員として頼もしく成長していく姿を楽しみにしています。

HCU病棟スタッフ一同

おいしい治療食のレシピ

JAとりで総合医療センター 栄養部

血液透析食



材料 1 人分

いわし蒲焼き

・いわし開き	80 g
・片栗粉	9 g
・揚げ油	適量
A 砂糖	6 g (小さじ2杯)
A しょうゆ	6 g (小さじ1杯)
A みりん	6 g (小さじ1杯)
A だし汁	15 g (大さじ1杯)

ごま味噌和え

・いんげん	50 g
B いりごま白	0.5 g
B みそ	6 g (小さじ1杯)
B 砂糖	3 g (小さじ1杯)

もやしのソテー

・もやし	60 g
・炒め油	4 g (小さじ1杯)
・黒コショウ	0.01 g

果物缶詰

50 g

作り方

いわし蒲焼き

- ① いわし開きの両面に片栗粉をまぶす。
- ② 小鍋に揚げ油を熱し、①のいわしを素揚げする。
- ③ 別鍋にAの調味料を入れて軽く熱し、②のいわしを入れて全体に絡める。

ごま味噌和え

- ① いんげんはスジを取り、3～4cmの長さに切る。
- ② 鍋にお湯を沸かし、①のいんげんを入れて2～3分茹でる。
- ③ ザルに上げてお湯を切り、Bの調味料を加えて和える。

もやしのソテー

- ① フライパンに炒め油を熱し、もやしを入れて炒める。
- ② 黒コショウを振る。

	エネルギー (kcal)	蛋白質 (g)	カリウム (mg)	リン (mg)	食塩 (g)
ご飯150 g	243	4.3	63	67	0
いわし蒲焼き	303	15.9	242	199	1.1
ごま味噌和え	40	1.8	160	35	0.7
もやしソテー	44	1.0	41	15	0
果物缶詰	41	0.3	40	5	0
合計	671	23.3	546	321	1.8



- 先生、助産師さんはじめ病棟スタッフさん皆さんがとても優しくて温かいです。2回目の出産になりますが、やっぱりこの病院にしてよかったと思っています
- 「大丈夫」「頑張りすぎないで」「上手」など、支えになる言葉をたくさん頂いて、安心でき、元気もらえた。相談すると、親身になって対応してくれた。また、2子の時もお世話になりたい。ありがとうございました。
- 助産師さんをはじめスタッフの皆さんが優しく、お話したりと楽しい入院期間でした。帝王切開で術後辛かった時もありましたが、丁寧な対応をしてくださりありがとうございます。
- 陣痛中の励ましに不安が、とれて出産することができました。
- 初めての出産が帝王切開となり不安な気持ちでいっぱいでしたが、先生やスタッフの皆さんに温かく対応していただきました。赤ちゃんの体調や母乳の心配事など些細な疑問にも答えていただき、安心できました。退院の日は新しい生活に対して晴れやかな気持ちになりました。本当にありがとうございました。
- 出産後の体調を最優先に考えてくださったので、5日間で随分と回復しました。マッサージや夕食も充実しており、先生や助産師さんも丁寧な診察、説明で安心してお産することができました。ありがとうございました。
- 先生方はみなさん、いつもあたたかく丁寧に対応してくださいました。助産師さん、看護師さんも笑顔で、よく声掛けを下さって、気軽に相談したりすることができ、安心して過ごすことができました。
- 初めての出産で、不安いっぱいでしたが、優しく声をかけて頂き、無事に赤ちゃんを産むことが出来ました。また、出産を経験することで、助産師さんには特にお世話になって、助産師さんの心強さ、凄さを知りました。また、2子の時も、お世話になりたいと思います。ありがとうございました。



救急外来の看護師2名に知事から表彰状



表彰された高橋智子さん(左)と佐野広和さん(右)

救急外来の看護師、高橋智子さん（救急看護認定看護師）と佐野広和さん（特定看護師主幹）が、救急患者さんに対する日頃の献身的な努力が評価され、9月に大井川和彦茨城県知事から表彰されました。

表彰された高橋さんからは「茨城県救急医療功労者知事表彰という栄誉をいただき、大変嬉しく、身の引き締まる思いです。皆様への感謝を胸に、これからも地域の方々が安心できる救急医療のために温かい心を持って尽力いたします」との声が寄せられ、佐野さんからは「茨城県救急医療功労者知事表彰を賜り、身に余る光栄です。関係各位のご支援に深く感謝いたします。この栄誉を胸に、今後も地域の救急医療の発展のためなお一層尽力してまいります」との声が寄せられました。

祝日の月曜日の一部を開院します

今年度、祝日の月曜日の一部を開院します。
全ての診療科で平日の月曜日と同じ診療、検査を行う予定です。
外来受診の際にご注意いただくようお願いいたします。

開院日 2025年 11月24日（月）
2026年 1月12日（月）



「JAとりで通信」のアンケートにご協力をお願いします

右のQRコードからアンケートを開きお答え頂くようお願いいたします。



今月の表紙

脳神経外科では、脳神経内科と協力しながら脳や脊髄の病気に対応しています。開頭手術やカテーテル治療、内視鏡手術など最善の治療を提供します。